

# 1 NAISTの知的財産管理の特徴

## 第1ポイント(Communication)

- ・全研究室・全知的財産の把握
- ・教員との密接なミーティングによる意識改革
- ・知的財産、新産業創出・雇用創出の重要性

講座数	相談講座数	特許出願講座数	著作権移転契約講座数	試料契約講座数
59	59	47	6	12

## 第2ポイント(Quick Response)

- ・迅速なレスポンス
- ・早期の把握と相談から10日以内の判断
- ・教員へのアクセスがあったときの、後の迅速なフォロー

事前相談会議	発明者・コーディネータ	発明の把握、市場の把握	90回 / 年
--------	-------------	-------------	---------

## 第3ポイント(Marketing)

- ・厳格な評価体制 ・必ず出口(ライセンス・共同研究・競争資金獲得等)のある特許出願

評価会議	知的財産本部署員	最終の出願可否	50回 / 年
------	----------	---------	---------

## 第4ポイント(Creation)

- ・創造性・展開性ある技術移転
- ・発明者とコーディネータの密接なコラボレーションによる市場開拓

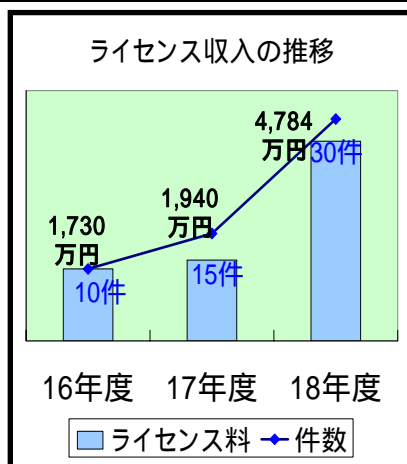
特許戦略検討会議	発明者・知的財産本部署員	発明のブラッシュアップ 特許請求の範囲と市場性、 応用性のディスカッション	60回 / 年
----------	--------------	---	---------

## 最終ステージ(Goal)

- ・ライセンス収入により実力見せ、さらなる産学連携へ
  - ・新産業創出・雇用創出 日本活性化へ
- ブランド力の向上により、教育、研究へのフィードバック

## 2 ライセンス詳細

18年度ライセンス収入			
国内企業	特許	9件	1,456万円
	研究試料	8件	1,126万円
	著作権・ノウハウ	4件	436万円
	商標	1件	2万円
小計		22件	3,020万円
海外企業	特許	3件	601万円
	研究試料	4件	963万円
	ノウハウ	1件	200万円
小計		8件	1,764万円
合計		<b>30件</b>	<b>4,784万円</b>



教員1人当りライセンス収入(万円)		
日本全体	0.3	2003年
奈良先端大学	23	2006年
MIT	33	2002年
Stanford	52	2002年

### 3 NAISTの産学連携の将来展開

